



News Letter 冬号

世界に広がる“からし種運動”のネットワーク「声なきものの友」の輪
ニュースレターVol. 59 (2025年12月発行)

“愛”と“勇気”をもって、クリスマス生きよう

2000年前に誕生されたイエスは、私たち人類のみならず「万物」を神と和解させるため（コロサイ1:20）に、神としてのあり方を捨て、人の姿をまとわれたお方です（ピリピ2:6）。うめき苦しむ被造物すべての「声なきもの」の友になるために十字架で血を流されました。イエスの血は、“愛”と“勇気”の象徴です。聖書が「奥義」として教えていることは、信じる者たちの「内に住んでおられるキリスト」（コロサイ1:27）です。「声なきもの」の友として生きたイエスを内在させていただき、現代において生きる者として派遣されている～それが“私たち”です。

代表・神田英輔

団体名の変更／新副代表の紹介

10月27日のFVI総会にて、団体名を「声なき者の友」の輪から「声なきものの友」の輪に変更することを決定しました。「者」から「もの」へ。「声なき者の友」として生きることがイエスの友として生きることには他ならない、という確信から2010年にFVIは創始しましたが、この15年間で地球環境は変化し、被造物の呻きの声が聞こえてくるようです。原発事故後の福島で放置牛のケアをする「もーもープロジェクト（現もーもーガーデン）」を支援し、2015年には陣内が『万物のいやし 現代 Healing the Earth』という書籍の翻訳に携わったことに加え、2年前からは柳沢が埼玉で被造物ケアの農業に取り組み始めました。「者」から「もの」とすることで「声を出せない存在」には人間だけでなく「呻く被造物（ローマ書8:22）」も含まれること、被造物のはじまりであり目的（ヘブル2:10）であるイエスに召し出された私たちが声を出せない被造物のために声を上げ、その回復を待ち望む存在であることを体現するための名称変更です。

また、団体設立時からのFVI副代表だった池田博先生が引退なさり、今後は「祈祷顧問」として祈り見守ってくださることになったのに伴い、新たに吉川直美師が副代表に就任くださることが同総会で承認されました。これまでFVIの役員として関わってくださってきた吉川直美先生は2009年に東京都中野区にあるシオンの群教会の牧師となられ、同年より聖契神学校の教師もなさっています。

FVIの理想は「より強く、より大きく」という教会像から、「イエスのように降りていく生き方」を実践する信仰者の姿へのシフトにあると思っています。抑圧された人々に寄り添って共に生きていく者とされるためには、まず神の前で自身の中にある弱さを見つめ、「自分への抑圧」からも解放される必要があるという視点から、吉川師は今年の夏に「霊性センター PIETAS」を立ち上げられました。日本の教会が「声なきもの」＝辺縁化され不可視化された存在と共に生きる教会に変えられていくための預言的な声としてのFVIの使命に共感・共鳴くださり、副代表を引き受けてくださった吉川師の存在は、4名のカタリストにとっても大きな励ましです。新体制のFVIのために祈り応援くださる支援者の皆様とこれからも「共に喜ぶ世界」を目指して活動していきますので今後ともお祈り、ご支援いただけますと幸いです。（カタリスト 陣内）



新副代表 吉川直美師

エチオピア 2025 訪問報告と結婚のご報告

今年 9 月から 10 月にかけて、エチオピアを訪問しました。コロナ禍で始まった DTS (Dream to Shine Free-Schooling Project) は、皆さまのご支援のおかげで約 3 年半にわたり放課後学級や夏休み・週末クラス、絵画クラス、クリスマス祝会など子どもたちが楽しみながら学べる工夫を重ね、約 100 名の子どもたちに 3 年半の間、教育の機会を提供してきました。ところが昨年からの長期化した内戦の激化により首都アディスアベバ市外への不要不急の移動が制限され、紛争関連の危険区域に指定されたアカコ村への訪問が困難となり、現地での活動が継続できなくなっていました。

このように不安定な情勢で安全で持続可能な運営を行うためには正式な運営母体が必要だと痛感し、1 年をかけて日本での法人化を進め、エチオピアで正式なライセンスを持つ学校や団体とのパートナーシップ構築に注力しました。今回の渡航では、これまで協力関係にあった学校「Destiney Future Academy」の学長と打ち合わせを行い、今後は同校を中心に連携プログラムを進めていく予定です。また滞在中に日本とエチオピアの生徒がオンラインで交流する授業も行いました。互いの文化紹介や地域課題への取り組みを発表し合い双方向で学びを深めるこのプログラムは、3 年目となる今年も好評を得ました。貧困や内戦など課題の多いエチオピアですが、未来を担う世代が主体的に課題に向き合い、共に解決に取り組む姿勢を育てることを目指しています。



現地からオンライン交流に参加した生徒達

私事では、今年 2 月 8 日に二宮謙信さんと結婚しました。エチオピア人の母親と日本人の父親をもつ謙信さんとは 2013 年にエチオピアで出会い、その後名古屋で再会し、互いにエチオピアと日本をつなぐ活動に関わる中で信頼を深め、2024 年 1 月に交際を始め、約 1 年を経て結婚に至りました。

挙式の約 10 日前、突然の体調不良で緊急入院となり、大腸がんステージ 3 と診断されました。前後 3 日間の一時退院で予定通り結婚式を挙げ、直後に手術と抗がん剤治療を経て、現在はほぼ症状もなく回復しており、今は通院・治療を続けながら、仕事や体力づくりに励んでいます。引き続き私たち夫婦のため、またエチオピアと日本の架け橋となる「むすびめワークス」の働きのためにお祈り、ご支援いただけましたら幸いです（ご支援方法は「一般社団法人むすびめワークス」と検索）。カタリスト 二宮

その他の活動（2025 年 9 月～12 月）

東京武蔵野福音自由教会、東京若枝教会、帝京科学大学（東京）、高座教会スチュワードシップバザー（神奈川）、人吉としびチャペル、高森キリスト教会（熊本）、世界食料デー日本大会（福岡）、世界食糧デー岡山大会（岡山）、東北被災地合同五教会合同礼拝、世界食料デー東北大会（以上岩手県）、聖望キリスト教会（千葉）、万座温泉ホテル・チャペルタイム（群馬）北上尾チャペル（埼玉）などにおいてカタリストとしての奉仕をさせていただきました。参加してくださった方々、共に労してくださった皆様に心より感謝いたします。

働きの支援、会費支払いのための送金方法

- ① 郵便振替： 口座名：「F V I」 口座番号：00180-0-300201
- ② ゆうちょ銀行、三菱東京UFJ銀行の口座もご利用いただけますので、ご希望される方はお問い合わせください。

*このレターは、希望された方に郵送させていただいています。送付先の変更、差し止めなどは事務局にお知らせください。

*国内のカタリストを支援する場合、カタリスト名を、海外の活動を応援する場合、国名などを通信欄にご明記ください。

●「声なき者の友」の輪 事務局 email:info@karashi.net 090-3036-2776（神田）